（本研究は若手研究者が取り組んでいる研究です）

本研究のフェーズは、□基礎　■基礎～臨床　□臨床　です

転移性前立腺癌におけるプレシジョンメディシン

講師（学内）
上田　崇

① アピールポイント

当研究室で開発した新規針生検組織分割治具を用いた遺伝子抽出およびデジタルPCRを用いた遺伝子変異のモニタリングは高精度なプレシジョンメディシンにつながると考えられます。

② 研究の出口のイメージ

個々の転移性前立腺癌患者においてふさわしい薬剤を選択する因子を同定し、モニタリングすることで最適な治療方法を選択することを目指します。

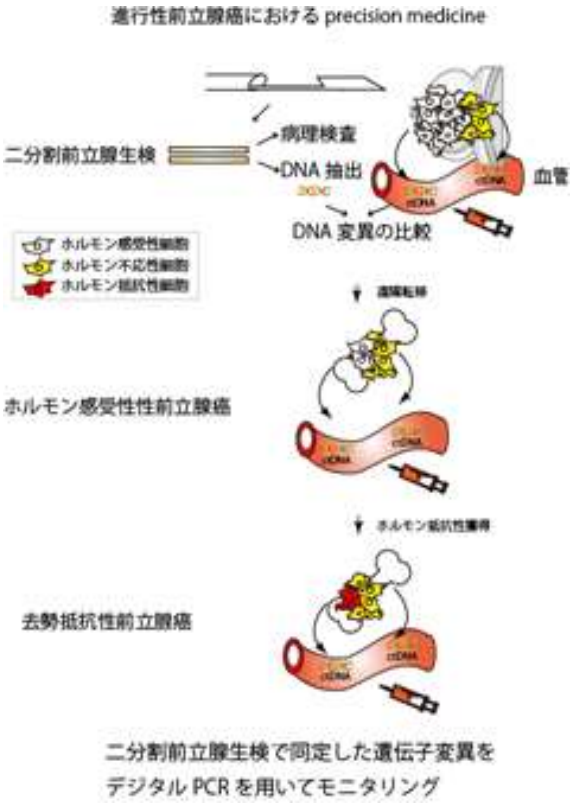
キーワード

転移性前立腺癌　プレシジョンメディシン　ホルモン治療

研究内容

前立腺癌細胞動態の個体レベルの計量的な分析が可能となれば薬剤選択に必要な因子の同定につながり、患者個人レベルで最適な治療を施すprecision medicineにつながると考えられます。近年、早期診断マーカー、治療選択の補助診断および予後予測の有望なツールとなりうる解析手法としてリキッドバイオプシーが注目されています。本研究では申請者らが開発した新規針生検組織分割治具を用いて、患者特有の遺伝子変異を同定し、デジタルPCRをもちいてctDNA中におけるその固有の遺伝子変異をモニタリングすることで薬剤抵抗性に関与する因子を同定することを目的とします。

(参考文献)Shiraishi T, et al. Usefulness of a novel device to divide core needle biopsy specimens in a spatially matched fashion. Sci Rep. 2020.



京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

問合せ先
情報・研究支援課
TEL: 075-251-5168　FAX: 075-251-5275
E-mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp